

toVO トグキ  
PLUS

www.tovo2011.com

SEASON 3



武備五ヶ所

市長賞



NO. 029

20140811

あおもりの100家族、わたしたちのこれから。







www.tovo2011.com



インタビュー

今号のご家族 ▶ 田中 秀次さん・敦子さん・青佳さん・利空くん

ハルカ リクト

撮影場所 ▶ 五所川原駅前ねぶた小屋(五所川原市)

※青佳さんは都合により撮影日当日欠席でした。

●2011年3月11日のこと、憶えていますか？

▶秀次さん「憶えています。ちょうど家でカップラーメンを食べていた時だったんですよ(笑)」

▶敦子さん「買い物にでかけていて、ちょうど車庫に車を入れていた時でした。なんか様子がおかしいなあと感じたんですが、旦那が外に出てきて、『地震だよー』って。でも、どのくらい揺れているのかは、私には分からなかったんです。」

▶秀次さん「そう。2人で電気なんか揺れているのを確認して、『ほら、地震じゃない!』って。」

▶敦子さん「それで、子どもたちはどうしているんだろうと心配になりました。」

▶利空くん「その時は幼稚園にいて、お母さんとお父さんが心配だった。」

▶敦子さん「青佳は小学校にいて、やっぱり、同級生同士で、お母さんとお父さんを心配してたって言うてましたね。皆がそれぞれで家族のことを心配してたんですね。」

▶利空くん「みんなでロッカーの中に入って隠れたんだよ。それで、地震がおさまって、外に逃げたんだよ。猛ダッシュで!」

●その日の夜は？

▶秀次さん「ダルマストーブを出してきて、オイルタンクから灯油を抜いて、なんとか暖をとりました。」

▶敦子さん「ウチは家族でキャンプをよくするので、キャンプ用品があるんです。ランタンを出してきて明かりにして。テレビがつかないので状況がよく分からなかったんですが、東京の友達から『大丈夫?』というメールがきたりして、だんだん状況がつかめてきたんです。」

▶敦子さん「市内の友達からもメールがくるんですが、みんな、オール電化の家に住んでいて、電気が

ないと何もできないんですね。ウチにはロウソクがたくさんあるので、それを集めて、皆に配りました。その後も、被災地にロウソクを送ったりしました。」

▶敦子さん「夕食はもともとアウトドア風のバエリアを作ろうと思って準備してたんです。地震で停電になって、なんだかホントにキャンプみたいになっちゃったねーって話をしながら食べてました。」

▶利空くん「寒かったもんなー!」

●心境や生活での変化はありましたか？

▶敦子さん「集合場所を家族で決めたのと、節電を常に心がけていますね。あとは、子どもたちにも、どんな時にでも食べて生きていけるようにと、キャンプは続けよう。」

▶秀次さん「その年にウチの門が倒れたんですよ。それを修復するのに大変な苦勞をしたんです。その時、被災地の方々の大変さというのを痛感しました。ウチとは比べ物にならないくらい大きな打撃を受けて、何十倍もの苦勞をされているんだなと。1件だけではなく、周り全部、みんなが大変な思いをしていて、その中で復興っていうのは並大抵の苦勞ではないだろうと感じています。」

●10年後のイメージは？

▶秀次さん「ヨボヨボながら生きているのかな。エネルギーは今とは随分変わっているのかなあと思いますね。」

▶敦子さん「とにかく家族が皆元気でいてくれたらイイなと思いますね。」

▶利空くん「うーん。あ、スキーのオリンピック選手になってるかな。たぶん。」

▶敦子さん「私はそのスキーに付き合っ、とても忙しい日々を過ごしていると思います(笑)」

終

定期購読のご協力をお願いします

1年間の定期購読を承ります。1,500円(送料・寄付金)／1年間(12号)です。ご希望の方は、「郵便番号・ご住所・お名前」を明記の上、メール(info@tovo2011.com)にてお申し込みください。

編集後記

今回は五所川原立佞武多の前で撮影したいと思ったものの、ご家族のスケジュール、僕のスケジュール、そして、立佞武多始まって以来、初めての祭期間中の大雨で、結局、ねぶた審査結果の翌日、祭り最終日(8/8)のインタビューと撮影になりました。偶然にも、ご家族の所属するねぶたが最高賞である「市長賞」を受賞、今年最高の立佞武多の前で撮影することができました。【小山田和正】

東日本大地震・津波被災者チャリティー

**tovo** トヴォ

2011年6月～2014年6月30日まで

¥2,458,595

を寄付することができました。ご協力に感謝いたします。

【tovo/トヴォ】は、2011年3月11日の東日本大震災によって、親を失った子どもたちを、青森から支援するプロジェクトです。チャリティーグッズを制作・販売し、その経費を除いた全ての収益を、長期的な子どもたちの心のケアの為、あしなが育英会へ継続的に寄付し、青森から「あなたがたのそばにいつもいますよ」と伝え続けます。ご支援・ご協力を宜しくお願いいたします。



今号のご家族▶田中 秀次さん・敦子さん・青佳さん・利空くん（※青佳さんは都合により撮影日当日欠席でした。）

撮影場所▶五所川原駅前ねぷた小屋(五所川原市)

【インタビュー】

●2011年3月11日のこと、憶えていますか？

▶秀次さん「憶えています。ちょうど家でカップラーメンを食べていた時だったんですよ（笑）」

▶敦子さん「買い物にでかけていて、ちょうど車庫に車を入れていた時でした。なんか様子がおかしいなあと感じたんですが、旦那が外に出てきて、『地震だよー』って。でも、どのくらい揺れているのかは、私には分からなかったんです。」

▶秀次さん「そう。2人で電気なんか揺れているのを確認して、『ほら、地震じゃない！』って。」

▶敦子さん「それで、子どもたちはどうしているんだろうと心配になりました。」

▶利空くん「その時は幼稚園にいて、お母さんとお父さんが心配だった。」

▶敦子さん「青佳は小学校にいて、やっぱり、同級生同士で、お母さんとお父さんを心配してたって言ってましたね。皆がそれぞれで家族のことを心配してたんですね。」

▶利空くん「みんなでロッカーの中に入って隠れたんだよ。それで、地震がおさまって、外に逃げたんだよ。猛ダッシュで！」

●その日の夜は？

▶秀次さん「ダルマストーブを出してきて、オイルタンクから灯油を抜いて、なんとか暖をとりました。」

▶敦子さん「ウチは家族でキャンプをよくするので、キャンプ用品があるんです。ランタンを出してきて明かりにして。テレビがつかないので状況がよく分からなかったんですが、東京の友達から『大丈夫？』というメールがきたりして、だんだん状況がつかめてきたんです。」

▶敦子さん「市内の友達からもメールがくるんですが、みんな、オール電化の家に住んでいて、電気がないと何もできないんですね。ウチにはロウソクがたくさんあるので、それを集めて、皆に配りました。その後も、被災地にロウソクを送ったりしました。」

▶敦子さん「夕食はもともとアウトドア風のパエリアを作ろうと思って準備してたんです。地震で停電になって、なんだかホントにキャンプみたいになっちゃったねーって話をしながら食べてました。」

▶利空くん「寒かったもんなー！」

●心境や生活での変化はありましたか？

▶敦子さん「集合場所を家族で決めたのと、節電を常に心がけていますね。あとは、子どもたちにも、どんな時にでも食べて生きていけるようにと、キャンプは続けよう。」

▶秀次さん「その年にウチの門が倒れたんですよ。それを修復するのに大変な苦勞をしたんです。その時、被災地の方々の大変さというのを痛感しました。ウチとは比べ物にならないくらいの大きな打撃を受けて、何十倍もの苦勞をされているんだと。1件だけではなく、周り全部、みんなが大変な思いをされていて、その中で復興ってというのは並大抵の苦勞ではないだろうと感じています。」

#### ●10年後のイメージは？

▶秀次さん「ヨボヨボながら生きているのかなあ。エネルギーは今とは随分変わっているのかなあと思いますね。」

▶敦子さん「とにかく家族が皆元気でいてくれたらイイなと思いますね。」

▶利空くん「うーん。あ、スキーのオリンピック選手になってるかな。たぶん。」

▶敦子さん「私はそのスキーに付き合っ、とても忙しい日々を過ごしていると思います（笑）」

#### 【編集後記】

今回は五所川原立佞武多の前で撮影したいと思ったものの、ご家族のスケジュール、僕のスケジュール、そして、立佞武多始まって以来、初めての祭り期間中の大雨で、結局、ねぶた審査結果の翌日、祭り最終日（8/8）のインタビューと撮影になりました。偶然にも、ご家族の所属するねぶたが最高賞である「市長賞」を受賞、今年最高の立佞武多の前で撮影することができました。【小山田和正】

#### 【寄付総額】

2011年6月～2014年6月30日まで、「¥2,458,595」を寄付することができました。ご協力に感謝いたします。